

火の見やぐら

鵜殿地区



現在



昭和 27 ～ 28 年ごろ

今回は、鵜殿地区にあった火災の早期発見と警報を目的に設けられた「火の見やぐら」をご紹介します。

火の見やぐらは、江戸時代から昭和初期にかけて全国ほぼすべての地域に整備されましたが、自治体による消防団の包括、電話の普及と119番による通報体制の整備、サイレンや防災行政無線などの整備により、現在はその役目を終え、ほとんどの火の見やぐらは撤去されました。

町内には現在、火の見やぐらは残っていませんが、昭和27年から28年ごろに撮影された火の見やぐらの写真が残っており、現在の町役場裏あたりに存在していた立派なやぐらの姿が確認できます。

火の見やぐらはひとつとして同じ形状はないといわれており、鵜殿のものは三本の筋交入りの足に三角の見張り台、四角形屋根根の下に半鐘が吊るされたデザインで、石造りの基礎も見られます。

かつて鵜殿のまちを見守っていた火の見やぐらは、今はその姿こそありませんが、当時の暮らしや地域の防災の歴史を今に伝えてくれています。写真に残るその凛とした姿から、地域を支えた人々の思いを感じることができます。

ひょうたん屋

夜更かしの週末が始まりました

毎年、この時期はサッカーファンの僕にとって、心待ちにしている時間があります。それは、8月中旬から始まる欧州各国のサッカーリーグの新シーズンの開幕です。特に、僕はイングランドのプレミアリーグの試合を見るのが好きで、好きなチームの試合は深夜でもライブで観戦し、次の日の眠気よりも、試合をリアルタイムで楽しむことが勝ってしまいます。

また、好きなチームの試合を見ていると得点が入った瞬間は、夜中だと分かっているにもかかわらず声を上げたり、拍手をしたりと一人で盛り上がりすぎてしまいます。次の日には、家族から「夜中うるさかったわ」と注意されることもあります。今後もし好きなチームの勝利を願って、毎週末、テレビの前で歓声を上げようと思います(笑)。

(開幕戦勝利にニッコロ 田中 健太郎)

キャンピングを体験してきました

みなさん今年の夏はどのように過ごしていますか。夏と言えば、やはり海や川などに泳ぎに行った人が多いのではないのでしょうか。

私はキャンピングという溪谷下りを体験してきました。キャンピングは滝をロープで降りたり、滑ったりするのですが、これが想像以上に高さや傾斜があり、無傷では帰れないのではと思いました。しかし、ガイドさんに安全な降りかたや滑りかたを教えてくれたおかげで無事、無傷でキャンピングを終えることができました。怖さもありつつも楽しさをしっかりと感じる事ができ、通常の川遊びでは、体験できない楽しさを味わうことができました。水の冷たさと、怖さで二重に涼しくなった夏でした。

(川遊びレベル100 曾越 大成)



広瀬 拓也
撮影



広瀬 拓也
撮影